



付添犬とともに 心のよりどころとして存在したい

楓の丘子どもと女性のクリニック
新井 康祥さん

「付添犬を通して、傷ついたり子どもの心のよりどころになれるといいです」。そう話すのは、虐待や犯罪などの被害を受けた子どもが安心して自分の受けた出来事を司法関係者や医療者などに伝えられるよう、寄り添って手助けをする付添犬の普及に尽力する新井康祥さん。付添犬の発祥は米国で、国内では2014年に普及活動が始まりました。その活動の中心を担っていたのが新井さん。当時、県内の病院で子どもを診療する際に、アニマルセラピーの効果を実感したことが普及を始めるきっかけになったと話します。付添犬は子どもの警戒心を和らげる効果があり、「犬がいることで、緊張が薄れて安心してくれます。今までなかなか治療できなかった子どもたちへの治療ができるようになりました」とその効果を話します。全国に付添犬は五頭。そのうちの一頭が、新井さんが開設した「楓の丘子どもと女性のクリニック」にいる「ハチ」です。クリニックでは、セラピー犬としてハチが大活躍。悩んでいる子どもたちのそばに寄り添ったり、一緒にゲームをしたりして、子どもたちに安心と笑顔を与えます。「採血を嫌がる子にも効果的で、ハチをなでてもらうことで、スムーズに採血できるようになりました」と話します。

新井さんは普及活動をする傍ら、精神科医として日々患者と向き合う中で、虐待やDVに悩む子どもや女性は多いと感じており、「発達障害を疑って受診しに来た人でも、話を聞いていくうちに虐待されている事実が発覚するケースもあります」と話します。また、診察に訪れる患者の特徴を「自信をなくし、自分の可能性を狭めている人が多く、できないことに目を奪われがちです」と分析し、患者と接する際には「その人の良いところを見つけ、その強みを本人に理解してもらうことを大切にしています」と話します。そんな新井さんのところには、患者さんがふらりと遊びに来ることもあり、「私のことを親代わりに思ってくれてるんじゃないか。昔診ていた患者さんが元気になって結婚の報告をしに来てくれたときはうれしかったです」と笑顔を見せます。

「子どもや女性を守るため、持てる知識やスキルを生かして手助けしていきたい」と話す新井さん。今後について「付添犬活動の効果を多くの人に理解してもらって、より多くの人を助けられる環境を作りたい」と目を輝かせます。悩みや不安を抱えている人の心のよりどころとして存在し続ける新井さん。これからもがんばっている人の幸せを願って、その心の声に耳を傾けます。



▲付添犬のハチちゃんとハンドラーの向野さん

cover

皆さん、東京五輪・パラリンピックで使用されたメダルが、使用済み小型家電に含まれる金属、いわゆる都市鉱山を使ったメダルだとご存じでしたか。今回の表紙は、都市鉱山メダル発祥の地記念碑の除幕式に駆け付けてくださった吉田沙保里さんをパシャリ。詳細は、今号5頁をご覧ください。

